

(4) ②様式第4号-2 (報告書)

NITS・教職大学院等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 実施機関名：上越教育大学 連携機関名：上越市教育委員会（上越市立教育センター）、 上越市立浦川原小学校
	事業名： 通級による指導との関連による教科等におけるインクルーシブな授業づくり研修
	研修等名：【NITS・上越教育大学教職大学院コラボ研修】 通級による指導との関連による教科等におけるインクルーシブな授業づくり研修
	開催期間：令和4年5月9日（月）～令和4年12月22日（木） 開催場所：上越市立浦川原小学校（新潟県上越市浦川原区横川 321） 参加人数：研究発表会参加者総数29人（内訳：上越市立浦川原小学校教員3人、上越市内小中学校 教員18人、大学院生4人、大学教員3人、上越市教育委員会指導主事1人）

内容：

令和3年度【NITS・上越教育大学教職大学院コラボ研修】「通級による指導における自立活動の個別の指導計画を活用した授業づくり研修」では、事例を提供していただいた上越市立春日新田小学校において、通級担当教師と学級担任が協働で自立活動の個別の指導計画を作成し、通級による指導と各教科等の授業との関連を図った国語科の授業づくりを実践した。その授業を公開し、連携による授業づくりの成果を報告したが、通級による指導と教科の授業をどのようにして関連させ国語科の授業をつくっていったのかそのプロセスについては十分に研修内容として含めることができなかった。そこで、令和4年度【NITS・上越教育大学教職大学院コラボ研修】では、上越市立浦川原小学校の協力を得て、通級による指導と各教科等の授業との関連を図るプロセスを受講者に具体的に示し、受講者は、浦川原小学校での研修で得た情報を参考に、自らの勤務校において授業づくりを試行してもらう内容とした。このことによって、これまで、モデル授業の参観者になりがちであった受講者が、授業づくりの当事者として研修に参加し、授業づくりのプロセスをより具体的に学ぶことができた。なお、本研修は新潟県教育委員会の後援を受けて実施した。

- 1 上越市教育委員会（上越市立教育センター）、上越市立浦川原小学校との協働による、自立活動の個別の指導計画を活用した教師間の連携モデルの検討を以下の日程で実施した。なお、授業参観や授業づくりのための協議等は大学教員、大学院生あるいは上越市教育委員会指導主事、上越市内通級指導教室担当者も参加した。
 - ・5月9日（月）学習参観・本研修抽出児童の決定
 - ・5月中旬 抽出児童の保護者の承諾
 - ・6月6日（月）校内研修「自立活動の個別の指導計画作成の方法」講師 藤井和子教授
 - ・8月24日（水）安藤（2001）カード整理法による実態把握、個別の指導計画の作成
 - ・9月13日（火）個別の指導計画に基づいた通級による指導の授業実践・授業参観
 - ・9月15日（木）個別の指導計画に基づいた国語科における授業実践・授業参観
 - ・9月26日（月）校内研究推進部による指導案検討
 - ・10月3日（月）個別の指導計画に基づいた通級による指導の授業実践・授業参観
 - ・10月6日（木）個別の指導計画に基づいた通級による指導の授業実践・授業参観
 - ・10月14日（金）指導案検討 授業における手立ての検討
 - ・10月20日（木）授業公開
 - ・10月24日（月）協議会 授業における手立ての効果検討、通級指導教室での指導内容検討
 - ・10月27日（木）上越教育事務所訪問公開授業
- 2 浦川原小学校での研修で得た情報を参考に、自らの勤務校において授業づくりを試行した例
 - ・12月2日（金）公開授業 協議会（上越市立春日新田小学校）
通級による指導との関連による教科等におけるインクルーシブな授業づくり～小学校3年生社会科におけるICTを活用した学習の実践～ インクルーシブな授業づくり成果発表会
- 3 ・12月6日（火）上越市立教育センター研修
上越市立教育センター研修に位置付け、上越地域公立学校教員を対象に研修会を実施した。

成果：

- 動画による授業づくりプロセスの研修会への評価（回答数21 肯定的回答100%）
 - ・大変有意義だった（17）・有意義だった（4）・どちらともいえない（0）・あまり有意義でない（0）
 - ・有意義でない（0）
- 自由記述による評価
 - ・通常の学級と通級の効果的な関係研修ということで、最後に担任の先生が自分のための研修だけでなく、子どもへの見方も学ぶことができたことは大きな財産になると思います。また、通級の課題である学級との連携、教科学習の授業づくりの基礎の進め方も学ぶことができ有意義な研修になりました。ありがとうございました。

アイデアや工夫したこと：

- ①特別支援学校においてその効果が確認されている安藤（2001）北川・安藤（2019）の知見を踏まえた。
- ②抽出児童の実態把握、中心的課題の抽出、個別の指導計画作成から授業検討、教材検討といった授業づくりのプロセスを静止画と動画で編集し提供した。
- ③校内研究推進部と連携して実施したことにより、全校職員が、通級による指導における自立活動の個別の指導計画を活用した教科の授業づくりについて学ぶ機会となった。

<写真・図など>

①協働による自立活動の個別の指導計画作成場面

安藤（2001）、北川・安藤（2019）を参考に、浦川原小学校において実態把握図及び個別の指導計画を作成した。担任、通級担当、学年主任、学校長が参画することで、本児の個別の指導計画の内容が共有された。



②他校における自主的な取り組み

①の場を参観した春日新田小学校が、浦川原小学校の取り組みを参考に、通級による指導を受けている児童を対象に実態把握図と個別の指導計画（安藤，2001）を作成し、教科の授業研究を実施した。



③インクルーシブな授業づくり成果発表会（VTRによる授業参観・協議会）

上越市立教育センター研修に位置付け、成果発表を行った。浦川原小学校で取り組んだ、通級による指導と教科等の授業との関連を保つ授業づくりのプロセスを共有した。



文献

- 安藤隆男（2001）自立活動における個別の指導計画の理念と実践 川島書店
北川貴章・安藤隆男（2019）「自立活動の指導」のデザインと展開 ジアース教育新